

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成26年4月17日(2014.4.17)

【公開番号】特開2012-230614(P2012-230614A)

【公開日】平成24年11月22日(2012.11.22)

【年通号数】公開・登録公報2012-049

【出願番号】特願2011-99538(P2011-99538)

【国際特許分類】

G 06 F 17/21 (2006.01)

【F I】

G 06 F 17/21 550 J

【手続補正書】

【提出日】平成26年3月4日(2014.3.4)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ユーザから入力される入力情報から、程度が曖昧な曖昧語を検出する曖昧語検出部と、前記入力情報から、前記曖昧語が係る係り先に関係するタスクを判定するタスク判定部と、

前記タスクの重要度を判定する重要度判定部と、

前記タスクの重要度と前記曖昧語とを入力として、前記曖昧語が表す程度に対応する具体的な数値を出力する識別器の学習を、前記重要度、前記曖昧語、及び、前記具体的な数値を用いて行うことにより得られる前記識別器に対して、前記曖昧語を、前記重要度とともに入力として与えることにより、前記曖昧語を、前記具体的な数値に変換する変換部と

を備える情報処理装置。

【請求項2】

前記タスクの完了に応じて、前記曖昧語が表す程度に対応する具体的な数値を生成する生成部と、

前記重要度、前記曖昧語、及び、前記具体的な数値を用いて、前記識別器の学習を行う学習部と

をさらに備える

請求項1に記載の情報処理装置。

【請求項3】

前記タスクの相手のクラスである相手クラスを判定する相手クラス判定部と、

前記タスクの目的を推定する目的推定部と

をさらに備え、

前記重要度判定部は、前記相手クラス、及び、前記タスクの目的に基づいて、前記タスクの重要度を判定する

請求項1または2に記載の情報処理装置。

【請求項4】

前記タスクが、所定の待ち合わせ時刻に待ち合わせる待ち合わせタスクである場合、

前記変換部は、前記曖昧語を、その曖昧語が表す、前記待ち合わせ時刻に遅れる遅れ時間の程度そのものの具体的な数値に変換する

請求項1から3のいずれかに記載の情報処理装置。

**【請求項 5】**

前記タスクが、所定の待ち合わせ時刻に待ち合わせる待ち合わせタスクである場合、

前記変換部は、前記曖昧語を、その曖昧語が表す、前記待ち合わせ時刻に遅れる遅れ時間の程度の予測値を補正する補正值の具体的な数値に変換する

請求項1から3のいずれかに記載の情報処理装置。

**【請求項 6】**

前記識別器は、SVM(Support Vector Machine)、ニューラルネットワーク、又は、線形回帰モデルである

請求項1から5のいずれかに記載の情報処理装置。

**【請求項 7】**

前記タスクの相手のクラスである相手クラスを判定する相手クラス判定部をさらに備え、

前記重要度判定部は、前記相手クラスに基づいて、前記タスクの重要度を判定する  
請求項1または2に記載の情報処理装置。

**【請求項 8】**

前記タスクの目的を推定する目的推定部をさらに備え、

前記重要度判定部は、前記タスクの目的に基づいて、前記タスクの重要度を判定する  
請求項1または2に記載の情報処理装置。

**【請求項 9】**

ユーザから入力される入力情報から、程度が曖昧な曖昧語を検出し、

前記入力情報から、前記曖昧語が係る係り先に関係するタスクを判定し、

前記タスクの重要度を判定し、

前記タスクの重要度と前記曖昧語とを入力として、前記曖昧語が表す程度に対応する具体的な数値を出力する識別器の学習を、前記重要度、前記曖昧語、及び、前記具体的な数値を用いて行うことにより得られる前記識別器に対して、前記曖昧語を、前記重要度とともに入力として与えることにより、前記曖昧語を、前記具体的な数値に変換する

ステップを含む情報処理方法。

**【請求項 10】**

ユーザから入力される入力情報から、程度が曖昧な曖昧語を検出する曖昧語検出部と、

前記入力情報から、前記曖昧語が係る係り先に関係するタスクを判定するタスク判定部と、

前記タスクの重要度を判定する重要度判定部と、

前記タスクの重要度と前記曖昧語とを入力として、前記曖昧語が表す程度に対応する具体的な数値を出力する識別器の学習を、前記重要度、前記曖昧語、及び、前記具体的な数値を用いて行うことにより得られる前記識別器に対して、前記曖昧語を、前記重要度とともに入力として与えることにより、前記曖昧語を、前記具体的な数値に変換する変換部と

して、コンピュータを機能させるためのプログラム。

**【手続補正 2】**

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0307

【補正方法】削除

【補正の内容】